

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：林業費 目：森林整備費

事業名【新】県内産広葉樹種苗生産対策事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

林政部 森林経営課 木質バイオマス産業係 電話番号：058-272-1111(内4386)

E-mail : c11515@pref.gifu.lg.jp

1 事 業 費 3,955 千円 (前年度予算額： 0 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要求額	3,955	0	0	0	0	0	3,955	0	0
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

近年、再造林面積の1割程度の森林において広葉樹が植栽されているが、遺伝子かく乱防止に配慮した広葉樹の苗木生産体制が整備されていない。また、毎土種子及び周辺から種子供給が無い場合は、広葉樹等による天然更新が見込めず広葉樹の造成に苗木の植栽が必要となる。今後は生物多様性の保護の観点から、県内産広葉樹の苗木を植栽していく必要がある。

(2) 事業内容

(ア) 事業目的・事業効果

遺伝子かく乱防止に配慮した広葉樹の苗木生産体制の整備を進め、苗木生産者の試験栽培を支援することで、広葉樹苗木の確実な確保に繋がる。

(イ) 内容

- ・有識者等と種子採取の手法、種苗の移動範囲及び県内での種子採取や苗木生産体制の整備について検討を実施。
- ・広葉樹母樹林(ブナ他9種・全21箇所・計25.93ha)等から優良な県内産種子の採取を委託により実施。
- ・県の林木育種事業地等における広葉樹苗木の栽培試験の支援を実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

県10/10 県が優良な県内産種子を採種するものため

(4) 類似事業の有無

有

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託料	3,479	・種子採種委託費 2,819千円 ・苗木試験栽培委託費 660千円
報償費	224	検討委員会に係る報償費 (教授クラス1名×13千円×4h、苗木生産者5名×6千円×4h)
旅費	141	検討委員に係る旅費 51千円、打ち合わせ等の旅費 90千円
需用費	71	消耗品費、会議費
役務費	5	切手、郵送代等
使用料	35	会議室使用料、高速道路料金
合計	3,955	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

第4期岐阜県森林づくり基本計画の施策の柱「災害に強い循環型の森林づくり」において「苗木生産者に対する苗木の安定供給体制の支援」を実施することとしている。

(2) 国・他県の状況

広葉樹の地域性種苗の確保は、指定母樹林からの採種や民間団体への委託により近隣県でも実施している。

(3) 後年度の財政負担

継続的に必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

- 1) 事業主体：県
- 2) 妥当性：県内産広葉樹苗木の生産体制の構築に向け、種苗関係者との検討及び県内産種子の採取と苗木の試験栽培を行うもののため妥当。

事 業 評 價 調 書 (県単独補助金除く)

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

(事業目標)

- ・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
- ・種苗関係者等と種苗の移動範囲、県内での種子採取や苗木生産体制の整備について検討会を開催し、県内産広葉樹種苗の確保対策について共通認識を醸成。
- ・広葉樹母樹林（ブナ他9種・全21箇所・計25.93ha）等から優良な県内産種子の採種を委託により確保。
- ・林木育種事業地等における苗木の試験栽培を経て、令和10年度までに苗木生産者により優良な県内産広葉樹の種子から苗木が生産される。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R7)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

- ・現状では、県内産広葉樹の種子から苗木が生産できておらず、本事業により苗木生産者が生産できるようになるのは、早くても令和10年度からとなるため。

(これまでの取組内容と成果)

令和 4 年 度	・無
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 5 年 度	・無
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %
令和 6 年 度	・無
	指標① 目標：____ 実績：____ 達成率：____ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 3	国が令和6年3月に「森林の生物多様性を高めるための林業経営の指針」を定めるなど、遺伝子攪乱を助長しない地域性種苗の必要性は高まっている。
-----------	--

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価)	
------	--

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価)	
------	--

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

本事業では広葉樹の中でも堅果類（コナラ等）の種子（ドングリ）を対象としているが、堅果類は周期的に豊凶があるため、安定して種子を確保できない可能性があるため、林木育種事業を進める県が豊作期の種子を保存するなどして種子の安定供給が出来る体制を構築する必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

生物多様性の保護の観点から、遺伝子かく乱防止に配慮した広葉樹の地域性苗木を植栽していく必要があること、全国的に広葉樹の森づくりの取組みが始まっていることから、広葉樹の地域性苗木の生産体制の構築、苗木事業者の育成は急務である。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	